

え、安全教育、運転免許の取得 至った。受け入れは継続して行っている。推進に向けて今回の株式取得に なお、外部からの教習受講の

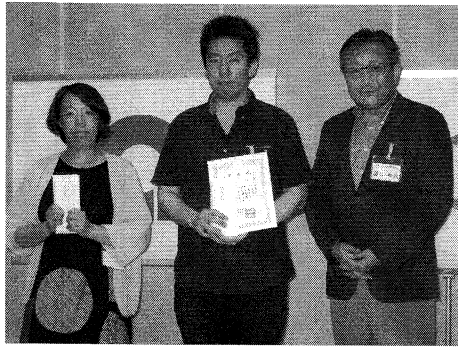
## 川崎陸送 QC大会で「チームきのたけ」が3連覇

### 最優秀提案は納品先での安全通行確保

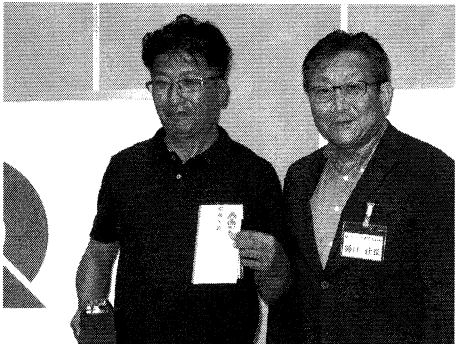
川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は6月22日、第50回QCサークル代表発表会を東京都トラック総合会館で開き、予選を勝ち進んだ10サークルが活動の成果を発表した。審査の結果、菓子の流通加工ライン作業で「総労働時間短縮による生産性向上」をテーマに取り組んだ「チームきのたけ」(坂戸流通センター)が優秀賞を獲得し、3連覇を達成した。

「チームきのたけ」では、パート作業員の勤務時間帯が異なるため、ライン作業時に人が減ってしまう時間があり、残りの作業員の負担がとくに夕方になるほど大きくなるという問題を指摘。全員がそろっている時間にライン作業を終えられるように、パート作業員の労働時間を明確にし、身体負担の軽減と作業効率の改善に取り組んだ。

1人あたりの時間あたりの生産性の高低差平均比率を下げるため、全員がいる9時~15時までをライン作業、15時~16時30分を翌日の段取り作業の時間と決め、段取りの内容もホワイトボードで見える化。



樋口社長(右)と「チームきのたけ」



樋口社長(右)と赤穂営業所の土井氏

翌日は作業員全員がいる9時からライン作業をスタートできるため、作業のスピード、バランスも改善した。

優良賞はエコシヤトルの回収見直しを図った「関門海橋」(山口営業所)、努力賞には人員削減による業務改善に取り組んだ「ひよこ物流」(赤穂営業所)とドレージ手配を見直した「湾岸クラブ」(通関東京営業所)が選ばれた。また、審査員特別賞には危険箇所把握など安全性の向上をテーマとした「みずほPG TO」(西多摩営業所)が選ばれた。

なお、優秀提案48件のうち、最優秀賞、優秀賞の取り組みも発表された。最優秀賞は土井裕氏(赤穂営業所)による「納品先お客様への安全通路の確保」。納品先で受け入れタンクと離れているため、歩行者がつかまったりせず安全に通行できるよう、独自のゴムシートを作成。安全通行の確保とポンプが外れることによる漏えい事故防止につなげた。

講評で樋口由人取締役は、「今回の発表では、そもそも」という言葉が良く使われていた。そもそもお客様との契約がどうなっているのか、そもそもある作業の対価をいただけているのか、など立ち戻って考えなければ改善活動も的外れになることがある。通常の仕事でも、そもそもと「いったん立ち止まること」が大事だ」と述べた。